

## 4 チェックリスト

新卒助産師の到達目標 (別表)	I 倫理的感応力	ケアリングの姿勢	チェックリスト1
	II マタニティケア能力	各期共通事項	チェックリスト2
		①妊娠期の診断とケア	チェックリスト3
		②分娩期の診断とケア	チェックリスト4
		③分娩各期における配慮の視点	チェックリスト5
		④産褥期の診断とケア	チェックリスト6
		⑤新生児の診断とケア	チェックリスト7
		CTG(分娩監視装置)の装着と判定	チェックリスト8
	IV 専門的自律能力	教育	チェックリスト9
		研究	
		対人関係	
倫理			
管理			

※チェックリスト1～チェックリスト9の到達目安については、入職1ヶ月後、3ヶ月後、6ヶ月後、1年後にメンターとともに評価し、目標設定を行っていく。

※経験できない項目に関しては、△マークとしてチェックし、2年目以降に設定しなおすか、または経験できる他施設での研修を取り入れる等の対応を検討する。

# 新卒助産師の到達目標

## 別表

＜新卒助産師の到達度の目安の区分＞

到達度 1：知識としてわかる 到達度 2：演習でできる 到達度 3：指導の下でできる 到達度 4：できる

分類	大項目	中項目	到達の目安				チェックリスト	
I 倫理的感応力	ケアリングの姿勢	知ること				4	チェックリスト1	
		共にいること				4		
		誰かのために行うこと				4		
		可能にする力を持つこと				4		
		信念を維持すること				4		
II マタニティケア能力	各期共通事項	妊娠・分娩・産褥・新生児期の健康生活行動診断及び経過診断に必要な情報がわかり、定められたフォームに沿って情報収集することができる				4	チェックリスト2	
		正確に看護実践記録ができる				4		
		緊急時、指示・支援を受けながら行動できる				4		
	①妊娠期の診断とケア	妊娠期の診断とケアができる				3	チェックリスト3	
		妊娠期の異常への対処と援助ができる				3		
	②分娩期の診断とケア	分娩期の診断とケアができる				3	チェックリスト4	
		分娩の異常への対処と援助ができる				3		
		妊産婦の特殊性を考慮した心肺蘇生法への対処と介助ができる		2				
	③分娩各期における配慮の視点	入院時から分娩第1期					4	チェックリスト5
		分娩第2期～分娩第3期					4	
		分娩第3期～分娩第4期					4	
		総合					4	
	④産褥期の診断とケア	産褥期の診断とケアができる					3	チェックリスト6
		産褥期の異常への対処と援助ができる					3	
	⑤新生児の診断とケア	出生直後の新生児のチェックができる					3	チェックリスト7
		新生児期の診断とケアができる					3	
		新生児期の異常への対処と援助ができる					3	
CTG（分娩監視装置）の装着と判定	CTGによる胎児心拍モニタリングの適応を理解できる					3	チェックリスト8	
	適切な装着と説明ができる					3		
	各ガイドライン（産婦人科診療ガイドライン・助産所業務ガイドライン）に基づき、判読ができる					3		
	モニタリング結果に応じて報告ができる					3		

分類	大項目	中項目	到達の目安				チェックリスト
IV専門的自律能力	教育	職場内の教育プログラムを理解し、目標に沿って学習を進めることができる				4	チェックリスト9
		部署内の教育プログラムが理解できる				4	
		学生の実習に配慮できる				4	
	研究	研究発表会に参加し、研究に関心を持つことができる				4	
	対人関係	妊産褥婦及び家族と適切な人間関係を築くことができる			3		
	倫理	看護師及び助産師の職業倫理が理解できる			3		
	管理	院内の安全対策に関するマニュアルを知り、感染対策を実施できる				4	
		周産期で起こり得る事故を予測し、対策がとれる			3		
		院内の感染防止対策マニュアルを知り、感染対策を実施できる			3		
		器具・器材を正しく取り扱うことができる				4	
		破損・紛失・交渉時は、速やかに報告し所定の手続きができる				4	
		災害時対策について、実施できる			3		
		職場の特殊性と業務内容について説明できる				4	
職場の運営方針・目標を知り、その達成のための活動に参加することができる				4			

※Ⅲウィメンズヘルスケア能力に関しては、新卒時の研修には含まない。  
 ※CTG判読は、リスクに関係なくあらゆる状況下で判断できることを想定する。

# I 倫理的感応力〈ケアリングの姿勢〉

## チェックリスト1

到達度 1：助言があれば意識して関ることができる      到達度 2：意識して関ろうと努力している  
 到達度 3：概ね意識しながら関わっている  
 到達度 4：常に意識しながら関わっている / 無意識に慈養的な関りができる / 存在そのものが慈養的である

	GIO（一般目標）	SBO（行動目標）	評価の時期			
			1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年
知ること	妊産褥婦・家族と同じように出来事を理解しようと努力する	1 対象者を理解するとき前提や先入観で見ないようにする				
		2 対象者を中心におく				
		3 対象者の体験に関するアセスメントを行う				
		4 対象者を重要な存在として認めようとする意思を持つ				
		5 対象者が示す反応を大切にす				
共にいること	妊産褥婦・家族にとって精神的に存在し続ける	6 対象者の元にいる				
		7 対象者に何かあればすぐに何かできる				
		8 対象者と感情を共有できる				
		9 対象者にとって負担にならないように存在する				
誰かのために 行うこと	自分にするように、出来る限り他の人に何かをする	10 対象者の苦しみや悲しみを和らげる				
		11 対象者をなぐさめる				
		12 対象者のニーズを予測する				
		13 自信を持ち巧みに実行する				
		14 対象者を保護する				
		15 尊厳を守る：押し付けがましくなくすぐに忘れられるように行う				
可能にする力を持つこと	人生の移行期や未知の出来事を対象者が楽に通っていけるようにする	16 自分の専門知識を他者の向上のために使用する				
		17 対象者の感情を許容したり確認して心理的サポートをする				
		18 情報を提供したり説明したりする				
		19 対象者が関心のあることに焦点を当て、考えることを助ける				
		20 正しいことを伝える／フィードバックを与える				
信念を維持すること	意味あることとして将来に目を向けるために、対象者が出来事を終わらせたり、移行したりする能力を信じる	21 妊産褥婦・家族の能力を信じ続ける				
		22 対象者の自尊心を維持する				
		23 自己の希望に満ちた態度を維持する				
		24 対象者に現実的な楽観性を与えるように関わる				
		25 継続して見る				

ケアリング: ケアリングは個人的な感覚として、責任と専心を感じるような重要な他者と滋養的 (nurturing) に関わること。(K.M.Swanson (1991) / 小林・片田訳 (1995))

## II マタニティケア能力〈各期共通事項〉

## チェックリスト2

到達度 1：知識としてわかる  
到達度 2：演習のできる  
到達度 3：指導の下のできる  
到達度 4：できる

GIO（一般目標）	SBO（行動目標）	評価の時期			
		1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年
妊娠・分娩・産褥・新生児期の健康生活行動診断及び経過診断に必要な情報がわかり、定められたフォームに沿って情報収集することができる	1 適切な看護データベースを選択できる				
	2 妊婦健診受診時、入院時などに必要な情報（必須項目）を聴取し、記録できる				
	3 不足している情報がわかり、必要な追加情報を収集することができる				
	4 身体状況に合わせ心理・社会的アセスメントができるよう情報収集できる				
	5 家族背景を考慮した情報収集ができる				
	6 医療チームとの連携を図り、情報収集ができる				
正確に看護実践が記録できる	7 ケア項目がもれなく実施入力できる（電子カルテの場合）				
	8 施設で決められている様式（フォーカスチャーターティングなど）で記録できる				
	9 必要時、バリエーション（逸脱事項）を記録できる				
緊急時、指示・支援を受けながら行動できる	10 緊急時、自ら行動を起こすために声に出して聞くことができる				
	11 ICLS（緊急蘇生法）の手順がわかる				
	12 緊急時、救急カート・AED など必要なものを持ってこることができる				

I

II

III

IV

V

VI

おわりに

参考資料

## Ⅱ マタニティケア能力〈①妊娠期の診断とケア〉

## チェックリスト3

到達度 1：知識としてわかる  
到達度 3：指導の下でできる

到達度 2：演習でできる  
到達度 4：できる

GIO（一般目標）	SBO（行動目標）	評価の時期			
		1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年
妊娠期の診断とケアができる	1 施設における妊婦のケア方針を理解し、対応できる				
	2 施設における妊娠期に関する業務基準・手順を活用できる				
	3 妊婦のニーズを把握できる				
	4 妊婦の健康診査ができる ・子宮底長、腹囲の計測ができる ・フィジカルアセスメントができる （体重増加・血圧・浮腫・尿蛋白・尿糖など） ・乳房の変化 （乳房の形状・乳腺の発育状況、乳頭の大きさ・硬さなど） ・妊娠経過の正常、異常が判断できる				
	5 胎児の健康診査ができる ・レオポルド触診法で胎位・胎向がわかる ・胎児心音の聴取ができる（ドップラー法・トラウベ） ・ザイツ法がわかる ・胎児の成長と健康度を評価できる				
	6 妊婦のケア計画を立案できる				
	7 妊婦のケア計画に基づいたケア、相談・健康教育ができる ・妊娠中の相談・教育ができる ・集団を対象とした親準備教育の運営・実施ができる ・母子愛着形成障害、虐待ハイリスク要因に関して情報収集し対処できる				
	8 妊婦に提供したケアの評価ができる				
	9 ケアの連携・継続ができる				
	10 バースプランの把握ができる				
	11 母乳育児に対するニーズの把握ができる				
	12 母乳育児に関するケア・教育・相談ができる				
	13 妊婦のバイタルサイン・検査値の基準値が理解できる				
	14 妊娠に関連する解剖生理が理解できる				
	15 周産期の代表的疾患の病態生理及び検査、観察項目について理解できる（切迫流早産・妊娠悪阻・妊娠高血圧症候群・妊娠糖尿病・前置胎盤・多胎妊娠）				
	16 分娩監視装置の装着と判読ができる				
妊娠期の異常への対処と援助ができる	17 妊婦へ行われる検査・処置の介助ができる （羊水穿刺・自己血貯血）				
	18 母体搬送入院時（母体搬送移送時）のケアができる				
	19 周産期の代表的疾患のケアができる （切迫流早産・妊娠悪阻・妊娠高血圧症候群・妊娠糖尿病・前置胎盤・多胎妊娠）				
	20 胎児異常・胎内死亡などの児を持つ産婦や家族への精神的フォローができる				

## II マタニティケア能力〈②分娩期の診断とケア〉

## チェックリスト4

到達度 1：知識としてわかる  
到達度 3：指導の下でできる

到達度 2：演習でできる  
到達度 4：できる

GIO（一般目標）	SBO（行動目標）	評価の時期			
		1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年
分娩期の診断とケアができる	1 施設における産婦・家族への分娩ケア方針を理解し、対応できる				
	2 施設における分娩期に関する業務基準・手順を活用できる				
	3 産婦のニーズを把握できる				
	4 分娩期の経過を予測的に考えることができる				
	5 分娩経過の診断ができる ・分娩経過に必要な観察項目がわかる ・内診技術ができる ・破水の診断ができる ・分娩開始の診断ができる ・入院時期の判断ができる ・分娩第1期から第4期の経過診断ができる				
	6 助産ケア計画を立案できる				
	7 分娩介助ができる ・産痛緩和ケアができる ・分娩進行促進への援助ができる ・心理的援助ができる ・正常分娩の直接介助ができる ・正常分娩の間接介助ができる				
	8 産婦に提供したケアの評価ができる				
	9 ケアの連携・継続ができる				
	10 産婦のバイタルサイン・検査値の基準値が理解できる				
	11 分娩に関連する解剖生理が理解できる				
	12 出生証明書の記載と説明ができる				
	13 母子健康手帳の記載と説明ができる				
	14 助産録の記載ができる				
分娩期の異常への対処と援助ができる	15 弛緩出血への対処ができる				
	16 死産のケアができる				
妊産婦の特殊性を考慮した心肺蘇生法への対処と介助ができる	17 ①妊産婦の心肺停止における一次救命処置について理解できる ・子宮左転位の介助の方法 ・用手気道確保の介助の方法 ・人工換気の介助の方法 ・胸骨圧迫の介助の方法 ・自動徐細動器（AED）の必要性				
	②妊産婦の心肺停止における二次救命処置について理解できる ・気管内挿管の準備ができる ・気管内挿管の介助ができる ・自動徐細動器（AED）の準備ができる ・自動徐細動器（AED）の介助ができる ・母体救命目的の緊急帝王切開術（PCS）の準備ができる				

CHECK! →日本産婦人科医会 妊産婦死亡症例検討評価委員会「母体安全への提言 2010」

I

II

III

IV

V

VI

おわりに

参考資料

## Ⅱ マタニティケア能力〈③分娩各期における配慮の視点〉

## チェックリスト5

到達度 1：知識としてわかる  
到達度 3：指導の下でできる

到達度 2：演習でできる  
到達度 4：できる

時期	SBO（行動目標）		評価の時期			
			1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年
入院時から分娩第1期	1	入院時の状態・治療経過・ケア計画について説明することができる				
	2	自己紹介ができる				
	3	入院時オリエンテーションができる				
	4	分娩経過を産婦及び家族と共有できる				
	5	産婦が安楽な体位で出産に臨めるよう配慮できる				
	6	処置について、産婦及び家族に説明し、実施できる				
	7	医師と連携し、分娩をサポートできる				
	8	産婦及び家族と適切なコミュニケーションができる				
	9	バースプランについて、話し合う機会を持つことができる				
分娩第2期～分娩第3期	10	タイミングを見極めて産科・小児科医師ヘコールができる				
	11	分娩時、夫・家族への産婦のサポート場所を配慮できる				
	12	分娩体位を産婦と一緒に考えることができる				
	13	産婦が安楽な体位で出産に臨めるよう配慮できる				
	14	分娩直後、不安への配慮をして産婦を一人にしない				
分娩第3期～分娩第4期	15	産婦・夫・家族にねぎらいの言葉をかけることができる				
	16	分娩後、できるだけ早く児に面会させることができる				
	17	分娩後 30 分以内に直接母乳授乳を行うことができる				
	18	早期に、家族で心地よく過ごせるように環境調整できる				
	19	母子同室の説明ができる（褥室・新生児室の説明ができる）				
総合	20	バースプランについて産婦・家族と話し合い、経過に合わせて修正し、満足のいくお産をサポートできる				
	21	プライバシー・羞恥心に配慮したケアが行える				
	22	産婦・家族・他スタッフに対し、礼儀正しく接することができる				
	23	LDR（分娩室）使用后、室内の環境整備・整理整頓ができる				



## Ⅱ マタニティケア能力〈④産褥期の診断とケア〉

## チェックリスト6

到達度 1：知識としてわかる  
到達度 3：指導の下でできる

到達度 2：演習のできる  
到達度 4：できる

GIO（一般目標）	SBO（行動目標）	評価の時期			
		1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年
産褥期の診断とケアができる	1 施設における褥婦のケア方針を理解し、対応できる				
	2 施設における産褥期に関する業務基準・手順を活用できる				
	3 褥婦のニーズを把握できる				
	4 褥婦の健康診査ができる ・産褥経過における身体的回復を予測できる ・褥婦の心理的社会的側面を診断できる ・母子愛着形成の障害、児の虐待ハイリスク要因を早期に発見できる				
	5 褥婦のケア計画を立案できる				
	6 褥婦のケア計画に基づいたケア、健康教育・相談ができる ・退院指導ができる ・育児指導ができる ・母乳育児に関する支援ができる ・母乳育児を行えない、行わない褥婦の支援ができる				
	7 褥婦に提供したケアの評価ができる				
	8 施設や地域と連携し、ケアの継続ができる				
	9 褥婦のバイタルサイン・検査値の基準値が理解できる				
	10 産褥に関連する解剖生理が理解できる				
産褥期の異常への対処と援助ができる	12 子宮復古不全の診断とケアができる				
	13 乳房トラブルへの診断と対処ができる				
	14 マタニティブルーズを早期に発見し、支援できる				
	15 母子愛着形成障害、児の虐待ハイリスク要因をアセスメントし対処できる（上司への報告、関連機関への紹介も含む）				

I

II

III

IV

V

VI

おわりに

参考資料

## II マタニティケア能力〈⑤新生児の診断とケア〉

## チェックリスト7

到達度 1：知識としてわかる  
到達度 3：指導の下でできる

到達度 2：演習でできる  
到達度 4：できる

GIO（一般目標）	SBO（行動目標）		評価の時期			
			1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年
出生直後の新生児のチェックができる	1	チェックポイント（早産児、弱い呼吸・啼泣、筋緊張低下）に沿って出生直後のチェックができる				
	2	出生直後のチェックポイントの全てが認められなければ、ルーチンケアを母親の近くで実施できる ・保温 ・皮膚乾燥 ・気道確保 ・アプガールスコアの採点				
	3	出生直後のチェックポイントのいずれかが認められた場合は、医師及び他の助産師に報告することができる				
	4	出生直後のチェックポイントのいずれかが認められた場合は、新生児蘇生の初期処置ができる ・保温 ・気道開通（胎便除去を含む） ・蘇生初期処置の効果判定 ・体位保持 ・皮膚乾燥と刺激				
	5	酸素投与の必要性が理解できる				
	6	高濃度酸素投与の問題点が理解できる				
	7	人工呼吸と胸骨圧迫の必要性が理解できる				
	8	必要時新生児蘇生法アルゴリズムに沿って、人工呼吸と胸骨圧迫が実践できる ①適切なマスクのサイズを選択できる ②バック・マスク換気を実施できる ③胸骨圧迫が実施できる				
	9	母親・家族に適切な説明や言葉をかけることができる				
新生児期の診断とケアができる	10	新生児期に関する業務基準・手順を活用できる				
	11	新生児の母体外生活適応のアセスメントができる				
	12	新生児の健康診査ができる ・出生直後の健康診査ができる ・児の日齢に応じて視診、触診、計測診を行うことができる				
	13	新生児の健康診査に基づいたケア計画の立案ができる				
	14	新生児にケアが提供できる ・新生児胎外適応の促進ケアが実施できる ・新生児の処置ができる（口鼻腔・胃内吸引・臍処置等） ・沐浴ができる ・新生児への予防薬の与薬ができる（ビタミンK2、点眼薬）				
	15	新生児に提供したケアの評価ができる				
	16	施設や地域と連携し、ケアの継続ができる				
	17	新生児のバイタルサイン・検査値の基準値が理解できる				
	18	新生児に必要な検査内容がわかる（ガスリー検査・ヘパラスチン検査・ビリルビン検査・ABR）				
19	新生児に関連する解剖生理が理解できる					
新生児期の異常への対処と援助ができる	20	新生児の緊急・異常時への対処と母親・家族への援助ができる				

出生直後の新生児のケアに関しては、「産婦人科診療ガイドライン産科編 2011」CQ801 を遵守することが前提となる。また、出生直後の新生児のチェックとは別に新生児の蘇生法（NCPR）の受講は必須である。

**CHECK!** → 「産婦人科診療ガイドライン産科編 2011」

「日本版救急蘇生ガイドライン 2010 に基づく新生児のための蘇生法テキスト」

到達度 1：知識としてわかる 到達度 3：指導の下でできる	到達度 2：演習のできる 到達度 4：できる
----------------------------------	---------------------------

GIO (一般目標)	SBO (行動目標)	評価の時期			
		1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年
CTGによる胎児心拍モニタリングの適応を理解できる	1 分娩第1期(入院時)にはCTGを一定時間(20分以上)装着する				
	2 産婦人科診療ガイドライン産科編・助産所業務ガイドラインに基づき、CTG装着の適応がわかる				
	3 連続モニタリングの適応がわかる(子宮収縮剤使用中・分娩第2期・母体発熱など)				
適切な装着と説明ができる	4 産婦が安楽で安全な体位で実施できる(セミファラー位など)				
	5 胎児心拍モニタリング中の説明ができる				
	6 CTGの胎児心拍数陣痛図は3cm/分で記録する				
	7 装着中の分娩経過の観察ができる				
各ガイドライン(産婦人科診療ガイドライン・助産所業務ガイドライン)に基づき、判読ができる	8 装着中の安楽と心理的な配慮が考えられる(適応による状況に応じた援助)				
	9 Reassuringの判定基準を理解し判読できる				
	10 胎児心拍数波形のレベル分類を理解できる(レベル1～レベル5)				
モニタリング結果に応じて報告ができる	11 胎児のwell-beingが障害されている恐れのある基準が理解できる ・基線細変動の消失を伴った、繰り返す遅発一過性徐脈 ・基線細変動の消失を伴った、繰り返す変動一過性徐脈 ・基線細変動の消失を伴った、遅延一過性徐脈 ・基線細変動の減少または消失を伴った高度徐脈				
	12 モニタリング結果を、適切に報告ができる				
	13 緊急を要する異常時に、速やかに報告ができる				
	14 助産録・看護記録に必要な情報を適切に記載できる				

分娩監視装置(CTG)の装着と判定に関しては、「産婦人科診療ガイドライン産科編2011」CQ410～CQ411および「助産所業務ガイドライン2009年改訂版」P.20を遵守することが前提となる。

**CHECK!** → 「産婦人科診療ガイドライン産科編2011」  
 「助産所業務ガイドライン2009年改訂版」  
 「第1回産科医療補償制度 再発防止に関する報告書～産科医療の質の向上に向けて～」

I

II

III

IV

V

VI

おわりに

参考資料

到達度 1：知識としてわかる 到達度 3：指導の下でできる	到達度 2：演習のできる 到達度 4：できる
----------------------------------	---------------------------

	GIO（一般目標）	SBO（行動目標）	評価の時期			
			1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年
教育	職場内の教育プログラムを理解し、目標に沿って学習を進めることができる	1 新人教育プログラムの内容が理解できる				
		2 達成可能な自分の目標を表現できる				
		3 目標達成に向けての学習方法がわかり継続して進めることができる				
		4 研修や学習会に目標を持って参画できる				
	部署の教育プログラムが理解できる	5 職場内の学習会に参画できる				
		6 実地指導者とともに目標に対しての評価修正を随時行うことができる				
		7 実地指導者とともにプリセプティ評価表を各期（5月、9月、2月）で評価し目標活動に活かすことができる				
	学生の実習に配慮できる	8 学生の実習期間や実習目標が理解できる				
研究	研究会に参加し、研究に関心を持つことができる	9 臨床研究の必要性が理解できる				
		10 職場内で行われている研究テーマがわかる				
対人関係	妊産褥婦及び家族と適切な人間関係を築くことができる	11 支援を受けながら妊産褥婦及び家族の年齢・社会的背景に合わせて対応できる				
		12 コミュニケーション技法としての五感を使うことができる				
		13 よく聴く、共感する、受けとめるなど、人間関係の基本姿勢に向け努力できる				
		14 忙しさを表に出さず、妊産褥婦・家族に対応できる				
倫理	看護師及び助産師の職業倫理が理解できる	15 看護師の倫理綱領が理解できる				
		16 ICM 助産師の国際倫理綱領が理解できる				
		17 助産師の行動は、保健師助産師看護師法に基づくものであることが理解できる				
管理	院内の安全対策に関するマニュアルを知り、安全対策を実施できる	18 セーフティルールを実践できる				
		19 必要時インシデント・アクシデントレポートが報告できる				
	周産期で起こり得る事故を予測し、対策がとれる	20 周産期で起こり得る事故について理解できる				
		21 周産期におけるセーフティルールを実践できる				
	院内の感染防止対策マニュアルを知り、感染対策を実施できる	22 標準予防策が実施できる				
		23 感染経路別予防策が実施できる				
		24 消毒薬の選択と使用ができる				
		25 環境整備ができる				
	器具・器材を正しく取り扱うことができる	26 衛生物品の適切な取り扱いができる				
		27 職場で使う医療機器の定位置と取り扱い方がわかる（シリンジポンプ・輸液ポンプ・呼吸心拍監視装置など）				
	破損・紛失・故障時は、速やかに報告し所定の手続きができる	28 使用物品の破損・故障時に報告できる				
		29 使用物品の故障時、修理の手続きがわかる				
	災害時対策について実施できる	30 災害時対策について説明できる				
		31 職場の消火設備と避難ルートについて理解できる				
		32 職場単位の防災訓練に参画できる				
	職場の特殊性と業務内容について説明できる	33 職場における看護対象者がわかる				
		34 看護体制について理解できる				
		35 一日の業務の流れがわかる				
職場の運営方針・目標を知り、その達成のための活動に参加することができる	36 職場の運営方針・目標がわかる					
	37 職場単位のミーティングに参画できる					
	38 グループ会へ参加し、与えられた役割を果たすことができる					